

会 議 録 (概要)

会議の名称	第2回 佐渡市地方創生総合戦略策定・推進会議
開催日時	平成27年5月22日(金) 14時00分 開会 16時15分 閉会
場所	金井コミュニティセンター ホール
議題	<p>会議次第</p> <p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略(仮称)たたき台について</p> <p>(2) 佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略(仮称)に対するご意見について</p> <p>(3) 意見交換</p> <p>(4) その他</p> <p>3 閉会</p>
会議の公開・非公開	非公開
出席者	別紙出席者名簿のとおり
会議資料	<p>資料No.1 佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略(仮称)たたき台概要</p> <p>資料No.2 佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略(仮称)たたき台</p> <p>(その他非公開資料 No.3あり)</p>

会議の概要（発言の要旨）

発 言 者	議 題 ・ 発 言 ・ 結 果 等
事務局	<p>2 議 題</p> <p>(1) 佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）たたき台について</p> <p>(2) 佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略(仮称)に対するご意見について</p> <p>議題(1)及び(2)について、資料No.1～3に基づき一括説明</p> <p>(3) 意見交換</p>
菊池（佐渡観光協会）	<p>観光客について、「あかね効果」でGWは回復傾向。世界遺産について、7月に推薦いただけるのであれば、一段と誘客が増えるものと思う。総合戦略については、3資産を中心に観光を行っているが、具体的に盛り込んでいければと思う。</p>
前田（JA佐渡）	<p>基本コンセプト「人と自然が共生できる美しい島」について異論はないが、他地域との差別化を図る必要があると思う。例えば、世界遺産の方向性を踏まえて、「歴史と文化が薫る島」であるとか。産業について、水田が中心となっているが、Iターン者等のことを考えると水田だけでは、足腰が弱いのでは。園芸振興、果樹、畜産等。畜産は乳製品のほか、和牛については、評価が高い。多様な農業振興策が必要だ。</p>
大倉（佐渡漁協）	<p>数値目標の評価を本会議で行うことは意義のあるものと考えている。</p> <p>たたき台の中身だが、漁業生産者人口の減少率が書かれている。佐渡は水産自体のウエイトは高いのだが、新潟県全体では加工という付加価値をつけるということが薄い。こうしたことで雇用は増えるのだが。佐渡ではブリについて（加工等）行っているが、他地域からすると遅れている。活魚を利用する等、雇用の促進につながる。</p>
廣瀬（佐渡青年会議所）	<p>現在は様々な産業でITを活用している。しかし、佐渡では未だ「人海戦術」で（物事に）対応している。働ける方が少ない佐渡ではITを活用することにより、生産性も上がり、ITのスキルを持</p>

丸山（第四銀行）	<p>っている方の雇用も増えることになる。</p> <p>総論だが、やはり人口問題が中心となる。 「人口のダム」を造る必要があると思う。 また、キーワードは「選択と集中」になると思う。その点で、コンパクトシティ化に向けて島民の理解を得る必要があるだろう。</p> <p>各論についてだが、金融機関としてできることは、①産業的な支援：事業計画等の相談、金融機関でも行っていることを周知したい。②ビジネスのマッチング：事業者同士を紹介すること。③ブランド化：展示会、商談会等で佐渡のブランドを高めていくことができる。④観光：佐渡の産業の中心は観光であろう。観光産業の支援として、「だいし観光学校」を開設したが、先日佐渡でも開催した。</p> <p>民間として、お手伝いできることはお手伝いしたい。</p>
橋本（美）（両津の未来を考える会）	<p>キーワードをもっと前面に。今の子ども達に、佐渡で子育てすると良いことがあると伝えたい。「地域の方が子育て支援をしてくれる」「食べ物も安全安心」など。島外から来た方も「佐渡は子育てに恵まれた環境」と言ってくれる。地域の方が優しくしてくれたことに感謝の意を伝え、その流れが続くようにしたい。</p> <p>第一次産業について、消費者として地場産の食べ物をもっと大切にしてほしい。（佐渡産の）食品を買うことは、（佐渡の）生産者に一票を入れることになる。生産者を助けることになると思ってほしい。</p>
金子（佐渡市小中学校PTA連合会）	<p>出生数について、人口の維持には3人以上必要になる。若いうちからの子育てに対する支援も行い、若いうちから子どもを生めば、その子どもも若くして子どもを生むことになるのでは。</p> <p>先日、北陸新幹線を利用したが、海産物等佐渡とダブるものがあった。佐渡は独自性を出していかなければと感じた。</p> <p>佐渡出身の島外在住の方の力を借りて、佐渡のアピールを行っていくことも考えてよいのでは。</p>
児玉（佐渡市連合婦人会）	<p>30～50 歳代の未婚の方が多いと聞く。</p> <p>出会いの場を設けてもらいたい。島外の方々との出会いで、良い結果が生まれ、島外の方に佐渡に住んでももらえればなおのこと良い。</p> <p>婦人会も高齢化が進んでおり、会員減少に歯止めを掛ける方策を模索中である。最近地域おこし協力隊の方で入ってくる人もいた。その方を通じて、更に入会者を増やすことや、その方が島外に戻っ</p>

<p>橋口（佐渡マスターズ）</p>	<p>たときに佐渡の良さを伝えていただけるようにしたい。</p> <p>出されている意見のほとんどが、行政に対する要望に思える。従来の活性化策の検討とあまり変わっていない状況だ。行政の側からも無難な回答しか返ってこないようになるのでは。それぞれの団体、自分達の団体として何ができるかをまとめる方向が必要なのではないかな。</p> <p>基本コンセプトについて、先ほどの意見にもあったが、東京に行ってこのコンセプトを示した場合、どれだけの人が佐渡のコンセプトと理解できるのか。例えば、「人のいのちを大切につなげる」ということを加えたりすることも考えてよいのでは。</p>
<p>橋本（舞）（佐渡子ども・子育て会議）</p>	<p>自分の経験を話す。</p> <p>移住して 19 年目になるが、最初は「旅のもん」として差別された。移住については、地域にどれだけなじむことができるかが大切</p> <p>子育てについてだが、子育てしながら働くことができない環境なのではないか。保育園に合わせた働き口はない。「子育てがしやすい佐渡」ということを打ち出すのであれば、子育てをしながら働くことができ、お母さんも生き生きとしている。そうしたことも目指すように。</p> <p>民泊、修学旅行の生徒を年間3～4回受け入れているが、子どもたちは、「佐渡はいいところだ。」と言ってくれる。子どもたちに食べてもらう料理の食材はほぼ佐渡産のものを使用している。こどもたちの反応は、「次はお母さんに食べさせたい。」と言ってくれる。お父さん、お母さんを連れてきたいそれを今後につなげていきたい。</p> <p>観光業に携わっており、お客さんからは「もう佐渡には来ない。」という声を聞く。（そうした声は大切であり、）真摯に聞き、サービスに努めることにより帰るときには、「また来る。」と言ってくれる。</p> <p>普通、旅行は一度行けば、次は別の場所へと考える。佐渡に来ていただく取組よりも、リピータを確保することが重要なのではないかな。来ていただいた方を大切にすることで、次は大切なひとを連れてきたいとなる。</p> <p>雇用のことも重要であるが、佐渡に住むと「心が健康になる」ということを伝えることが大切。佐渡には都会にはない静けさがあって、暗闇もある。昼と夜の区別があって、季節の違いもわかる。佐渡の子どもたちは、そうしたことが当たり前のことと思っているかもしれないが、それは（都会にはない）佐渡の素晴らしいところだ</p>

安中（佐渡地域振興局）

と伝えることが大切なのではないか。一度佐渡から出ても、また帰ってきてと言える。

広域自治体として県としても地方総合戦略を策定するが、市の策定とほぼ同時の進行となる。

市のたたき台について、全体的にはバランスがとれているものと思えるが、「まだ磨き上げる点がある。」と事務局から発言があったこともあり、最終的な策定案に期待したい。

県としては、今後計画策定の過程で技術的に協力できることがあれば積極的に協力したい。例えば、市の産業構造としては、一次産業が中心になると思うが、振興局には農林水産業の専門職員がいる。活用していただきたい。その他、計画全体の策定に当たっても、技術的に協力できる。

また、指標の設定に当たっては、人口減少対策に結びつけていくための、アウトカム指標の観点をとることが必要。行政がどれだけ汗をかいたかということではなく、住民がどれだけ満足したかということに視点を置くことだと思う。

柴原（中小企業家同友会佐渡支部）

佐渡として観光に一番力を入れたいのであれば、欠航がある航路だけではなく、空路がなければ駄目だ。観光客を呼び込めない。人口が**1,000**人を切っている島ですら飛行機が飛んでいるのに、佐渡島民から飛行機を要望する声が出ない。それでは佐渡の活性化につながらない。滑走路**2,000**メートルにこだわる方もいるようであるが、**2000**メートルの滑走路完成には**10**年かかってしまうとのことであり、現在の**890**メートルの滑走路で利用可能な飛行機のことを考えるべきだ。金山やトキだけが売りでは、観光客は1度来ただけで終わってしまう。広い海を利用（体験）できないということや、すぐ船が欠航してしまうということであれば、観光客も来なくなる。それに飛行機が飛ぶと、佐渡汽船（の経営）に影響があるということを考える方がいるかもしれないがそんなことはない。

また、飛行機を飛ばすことで6次産業の活性化にもつながる。佐渡の食べ物がすぐに首都圏で販売できる。佐渡の食べ物が美味しいということになれば、それを食べた人が「佐渡に行ってみようか。」という気持ちになる。

飛行機については、観光面だけを考えるのではなく、**50**人乗りの飛行機で観光**40**パーセント、6次産業が**40**パーセント、企業の利用が**20**パーセントということで採算は十分とれる。救急医療についても首都圏の病院で診てもらえることができる。建設業者の方にお

	<p>願いたいのは、道路ばかり造らないで、海にも目を向けてほしい。例えば、「藻」はエネルギー、食料、肥料として利用できる。被災地の宮城県塩釜市では「アカモク」加工が産業となっている。そのほか、浅瀬1メートルのところで観光客にアワビ、サザエ漁を体験させるのもよい。漁師が高齢化しても、危険な漁を収入源とするのではなく、こうした体験をさせることで収入を得られる。</p> <p>温泉が各地にあり、採算が採れないところが多いようだが、別の用途、例えばチョウザメの養殖などを行ってもよいのではないか。</p>
<p>佐々木(隆)副座長(佐渡森林組合)</p>	<p>山は、水の供給、木材供給、災害防止、CO2の削減にも役割を果たしている。また、産業面でも山を活用してもらいたい。バイオマスについては発電ではなく、熱エネルギーの観点で考えてもらいたい。また、観光面についても山、自然を利用した観光プロジェクトがあればよい。</p>
<p>池田座長(新潟大学)</p>	<p>基本コンセプト「人と自然が共生できる美しい島」については、言葉としては美しいが、内、外どちらに向けているのかを整理していただきたい。佐渡の人はこの言葉を本当に自覚しているのだろうかという心配もある。また、島外の人がこの言葉を聞いて佐渡のことと理解できるのか。この当たりを整理してもらいたい。基本方針では、医療面が不足していると感じた。人口減に対しては、「いのちをつなぐ」という視点が必要。そのことが、子育て、長寿化そして外から入ってきた人の安心にもつながる。</p>
<p>池田座長</p>	<p>各参加者が一通り意見を述べた。事務局は次回、回答できるところは回答をお願いしたい。</p>
<p>池町総合政策監</p>	<p>いただいたご意見を総括的に整理したい。</p> <p>コンセプト：佐渡を代表する言葉としては上手く表現できていない。</p> <p>→庁内で改めて議論したい。</p> <p>第一次産業：米づくりを中心とした農業はあるが、園芸、果樹、水産振興、畜産振興及び林業の部分については、佐渡の資源の必要性から盛り込みが少ない。</p> <p>→バイオマスのことも含めて、庁内で改めて検討する。</p> <p>ITの活用：これからの重要性を考えるとしっかりと盛り込むべき。教育面での活用も。</p> <p>市民としての取組：行政の取組だけではなく、市民としての取組</p>

	<p>を盛り込むことが地方創生の趣旨に合うのではないか。</p> <p>→次回の会議までに、各団体でどのように地方創生に取り組んでいただけるかということ伺わせていただきたい。</p> <p>子育て：子育てをしながら働くことができる、休日の対応等 →しっかりと庁内で議論する。</p> <p>観光：リピート率こそが重要 →庁内でより深めた議論を行いたい。</p> <p>空港：2,000メートル化だけではなく、既設の滑走路の利用を。 →意見を受け止め、どのように戦略に盛り込むか検討</p> <p>医療：戦略に盛り込まれていない。 →十分検討したい。</p> <p>そのほか、細かい点は議事録で確認したい。</p> <p>人口ビジョンの考え方について、佐渡の人口は毎年 1,000 人弱減少している。このうち自然減が 700 人、社会減が 300 人となっているが、高齢者の人口が多いことから、自然減を大幅に減らすことは現実的でないと考えている。このため、佐渡からの転出者を減らし、佐渡へのU I ターン者を増やし、結果として社会減を抑えることによって、佐渡人口の減少幅を抑えるという人口ビジョンを現在事務局で検討しているところ。</p> <p>人口減少幅を抑えるというものであり、佐渡の人口を増やすという人口ビジョンにはならないと考えている。このあたりについても、皆さまのご意見をいただきたい。</p>
<p>廣瀬</p>	<p>I T 業界は世界的にも就労人口が増えている中、中国やインドなどでは積極的に I T 技術者を増やそうとしている。ホームページやシステムを作る雇用を増やすということだけではなく、様々な業務に I T を活用できる人材を育成することが必要。10 年後、100 人、200 人のレベルで雇用を増やすということであれば、小中学校の段階でプログラミングを学ぶなど、就労人口が増えている I T にも目を向けるべき。</p>
<p>池田座長</p>	<p>教育等、I T を活用した土壌づくりも必要ということであると思う。</p>
<p>池町総合政策監</p>	<p>人口ビジョンの考え方を書面に起こすので、それについて皆さまからご意見を伺いたいと思う。</p>

前田	<p>社会減にフォーカスを当てることはよいと思うが、自然減対策も必要と思う。I ターンの雇用を増やす等を考えていけば、自然減対策となる。</p>
橋本（美）	<p>1、2年ですぐに結果が出るというのではなく、小中学校の教育の中で佐渡の素晴らしさを伝えていくことが大切だと思う。</p>
橋口	<p>移住しようとする方は、ネットで情報を調べる。公共的な機関とリンクしていれば、検索で上位に来る。</p> <p>過疎といわれた自治体で、人口増、過疎化を食い止めた自治体があるが、経験談を聞くとそれには 10 年かかったということであった。みんなで危機感を持って実行したとのこと。目標設定は確かに厳しいが、10 年後は変わると信じて精力的に行っていきたい。</p>
池田座長	<p>佐渡の情報を検索すると、5年前など古い情報にヒットする。情報を更新するという気運づくりが必要と思う。</p>
橋本（舞）	<p>「移住したい。」という声をよく聞く。ただそうした方も、本当に佐渡で子育てができるのか等、短期移住で確認したいようである。本年度から、短期移住の住宅制度ができたと聞く。そうした場をつくり、更に受け入れる環境づくりができれば、自然に移住者も増えていくのではないか。</p> <p>例えば、海外に住んでいる方が日本に帰ってくる際に、「一番日本らしい生活ができるのは佐渡だ」という話も聞く。1か月程度の短期移住ができるとよい。</p>
加藤地域振興課長	<p>短期移住の住宅については、6月から募集を開始し、7月から供用となる。受入可能な住宅は、畑野地区で2世帯2棟、赤泊地区で2世帯1棟となる。期間は1か月以上6か月未満となる。</p>
金子	<p>移住者が快く生活できるよう、受入側の意識も変えなければならないと思う。</p>
佐々木（隆）	<p>親の教育も重要。自分は小さい頃、親から「将来は農業に従事するのだ。」と教えられてきた。</p> <p>教育については、学力だけではなく体力面のことも考えることが必要と思う。</p>

橋口	<p>都会は収入も多いが、支出も多い。佐渡では生活にお金がかからない。ギブアンドテイク、お互いが幸せをプレゼントする、共有する風土がある。佐渡の人はもっと生活に自信を持ってよい。</p>
柴原	<p>佐渡にも良い企業がある、佐渡は素晴らしいということをもっと保護者の方に教育してもらいたいと思う。</p> <p>もうひとつ、女性に佐渡に残ってもらうことが重要。女性向きの仕事として、ハウスの中での仕事がある。企業とタイアップしてそうした業務を企業化するとよい。</p> <p>女性はものづくりが好きである。ものづくりの学校を佐渡に造って、作品を観光客に売るといったことも考えてよい。</p> <p>国際結婚を成功させる秘訣として、例えば外国語学校を造り、佐渡の男性は外国語を学ぶ、海外から来た女性は日本語を学ぶ。それならば、国際結婚も6割程度は成功するだろう。</p> <p>観光について、地産地消の観点からもホテルが佐渡の食材を利用した場合、島外の食材との差額分を助成する政策があってもよい。</p>
池田座長	<p>「女性が居たい環境づくり」ということになるかと思うが、「女性を（島外に）出さない」という観点から、島内の専門学校の学生の構成は。</p>
市橋産業振興課長	<p>NSGの専門学校は島外出身の学生の比率が高い。勇樹会が運営している保育の専門学校は16名中、島外出身は1名。保育の学校についても、島外の学生の比率を増やしていきたい。</p>
柴原	<p>女性の比率は。</p>
市橋産業振興課長	<p>NSGの専門学校は、伝統建築の学科等であり、男性の比率が高い。保育の専門学校は全員女性である。</p>
池田座長	<p>「佐渡から出なくても、佐渡で教育もでき、就職も、といった完結可能な」環境をつくることも重要だと思う。</p>
廣瀬	<p>若い人は子育て等もあり、ある程度の収入が必要。農業についても、機械化・IT化をして生産性を上げる、ブランド化を行う等、一定の収入が確保できないと若い人の就業が難しいのではないかと。</p> <p>女性の働く場所の確保についてだが、IT業界は、男女比はほぼ</p>

橋口	<p>変わらず、収入の面でも男女の差はない。男性は力仕事をし、女性はパートで働けばよいという時代に逆行する施策ではなく、佐渡に住んでいる女性でも働けるIT業界の雇用を増やすというのも、ひとつの選択肢ではないか。</p> <p>都市農園の主体は若い人となっており、農業が必ずしも高齢者のみが就業するものということでもない。新潟県の調査では、新潟県への移住者の年代別にみると、60歳代、20歳代が多いようであり、新たな潮流となっているようだ。</p>
大倉	<p>「佐渡に行くと（他にない）こんな教育が受けられる。」と言われるような、特長的な学校が必要。</p> <p>人はいずれ亡くなる。高齢者が亡くなるまでの間、自然豊かな佐渡で過ごしてもらおうよう、有料老人ホーム等の施策も考えてよいのでは。</p>
池町総合政策監	<p>市議会の全員協議会において、発言者を特定できない形で議事概要を公開したところ、一部議員から発言者を特定すべきとの意見があった。事務局としては、自由闊達な意見交換とするために、発言者を特定できない議事概要としたいと考えているが、皆さまが特に支障がないということであれば、発言者を特定する議事概要とする。</p> <p>※ 参加者からの異議等はなし。</p>
池町総合政策監	<p>発言者を特定する議事概要とするが、作成後、皆さまに内容の確認等をお願いしたい。</p>
池田座長	<p>発言内容について、思い違い等があるかもしれない。内容の確認をお願いしたい。</p> <p>次回の日程は。</p>
事務局	<p>次回は、今回いただいた意見をもとに内容を固めた素案をお示しする。開催は7月3日（金）14:00からとしたい。</p>
池田座長	<p>次回は、より建設的な意見交換をお願いしたい。</p>
その他	<p>3 閉会</p>